

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0892400037		
法人名	株式会社 コスモ		
事業所名	グループホーム アンダンテ		
所在地	茨城県守谷市本町 402-1		
自己評価作成日	2022年.8月29日	評価結果市町村受理日	2023年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JirgvsyoCd=0892400037-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JirgvsyoCd=0892400037-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2		
訪問調査日	2022年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナの影響で外出やご家族との触れ合いが少なくなっている中、ホームで楽しめるよう音楽療法、レクリエーション、各催し等に力を入れています。職員一人一人が、ご利用者さんの笑顔が見たいという気持ちを持っており暖かいケアを提供しています。職員同士のチームワークも良いです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大規模施設を経験してきた管理者は、少人数だからこそできる個々への細やかな対応にやりがいを感じている。職員の資質向上に力を入れており、堅苦しさを感じないよう工夫された研修は職員も参加しやすい。職員からは、チームワークがよく、風通しの良い職場だとの話が聞け、訪問調査時も職員や利用者がとても明るい印象を受けた。オーナーは職員を信頼しケアに関することは全面的に託しており、管理者も自身の理想の形が実現できているとのこと。コロナ禍で、グループホームならではの地域との交流ができない数年間だったが、今後は工夫しながら地域との関わりを戻していきたいという職員の前向きな姿勢に期待がもてた。**\*新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。**

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、ミーティング時に共有しており、理念以外にもユニット目標を立てて実践に取り組んでいます。	理念の他に職員で考えたユニット毎の目標を掲示している。ユニット目標は1年毎に見直しする事で、職員自らが考えて意識出来る。ユニット毎に利用者のカラーも異なり、目標も違ったものになっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍で地域との交流が難しくなっていますが、運営推進会議を中心に地域との繋がりができています。	オーナーは地区長との親交が厚く、地域との交流もスムーズである。近所の方とは日常的に挨拶を交わし、昔からの近所付き合いが続いている。地域のお祭では山車を見せにホームに立ち寄ってくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症理解を深めていただけるよう運営推進会議を有効活用しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で活発な意見交換をしてホームのより良い運営に繋げています。	民生委員、地区長、家族会、市担当者、包括支援センターで構成されている。家族会はイベントと同時開催とし、家族だけの時間を設けている。会議は対面で開催され、家族代表も含め率直な意見交換ができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナの影響など随時、相談して各関係機関との協力体制を取っています。	感染症対策についての相談や行方不明者対応などの協力体制が出来ている。入退去情報については、メールでのやり取りが多くなった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等を開いて知識を学び、職員一人一人の意識改革を行いケアに努めています。	身体拘束防止委員会は運営推進会議と同日に開催している。職員にはテスト形式の基礎知識研修を行う。研修後のフィードバックもあり内容を深める事が出来る。チェックリストがあり、スタッフ自身の意識付けにもなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者を中心に職員一人一人に重要性を問い意識改革を行いケアに努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会を開き、各職員が知り得た知識を必要時に活用できるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ケアマネがよく説明をし不安感のないよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃から電話等で意見を確認しご家族宛てに連絡文を送付しています。各入居者に担当職員を決めご利用者の想いを組みとるよう努めています。	ケアマネが家族とために連絡をとり、意見等ももらっている。面会に来られない家族にも電話で連絡している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場に入り、何気ない会話から意見を聞くよう努めています。レターケースを用意し提案や悩みなどの意見を聞いています。	職員一人一人にレターケースがあり、いつでも職員同士の意見交換が出来る。職員と管理者、オーナーの関係は良く、要望や意見も気軽に伝え合えるとのこと。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	オーナーは職員の状況を把握しており、給与面も含めて働きやすい環境を整備しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月研修会を開き、また資格取得の援助、提案を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各関係機関と協力体制を構築して常日頃からサービスの向上に努めています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各担当者を決めて信頼関係の構築を心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネを中心によくお話を聞き、信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネを中心によくお話を聞き、適切なサービス提供ををするよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気作りを大切にしており、職員一人一人が頑張っております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係が途切れないよう、ご家族と入居者との触れ合いを大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で以前のような積極的な関係継続は難しくなっていますが、電話、お手紙、面会などでできる限り支援を行っております。	利用者によって認知症の重症度は異なる為一概には言えないが、一番の馴染みの関係は家族だと考えている。知人に電話できる方や友人が訪ねてくる方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	よくアセスメントを取り、利用者さんの人柄、性格を把握して一緒に穏やかな生活を送れるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケアマネを中心に常に相談、支援できる体制を整えています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネを中心に状態把握に努め、職員担当も決めて、利用者さんの細かい変化、想いの把握に努めています。	ケアマネも現場に入って観察し、プランに反映している。気付いたことは直接職員へ報告したり、申し送りノートを利用している他、レターケースを活用する事もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式などを活用して把握に努めサービス支援をしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各担当者を決めて、ケース記録などを活用して情報の共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に利用者本位のケアプラン作成を心掛けており、職員全員で話し合いながら良いサービスに繋がるよう努めています。	ケアマネが中心となり、毎月2~3人ずつモニタリング。ケアプラン作りもケアマネが中心となり職員全員で関わる。課題とケース記録が連動しており、課題毎に担当スタッフが文章または口頭でケアマネに伝える。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録をしっかりと記入して、スタッフ間で共有してケアプランにも反映しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアマネを中心に各スタッフと相談、情報共有しながらいろいろと工夫しサービス提供しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議での情報をもとに地域事業、各関係機関と一緒に支え合いながら支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご希望の病院、馴染みのかかりつけ医に受診できるよう日頃より支援しております。	協力医と訪問看護は24時間緊急対応が可能であり、利用者・家族共に安心できる。通院は職員対応も可能。訪問歯科も入っている。利用者毎に医療関係のノートがあり、健康状態が把握しやすい。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を活用し、日頃の状態を報告し利用者様の健康管理に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から協力体制を整備しており、利用者様に安心していただけるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様からの意向を大切にしております。状態の進行に合わせて随時、相談しながらターミナルケアに取り組んでいます。	契約時に看取りに関する事前確認書をもらう。これまで2件の看取り経験がある。ターミナルステージになった時点で、事業所と医師、訪看や家族で話し合い方向性を決める。ケアプランも改めて作成し、職員の体制を整える。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会等を開いて知識を学び、職員一人一人がいざという時に動けるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を適宜行い、また備蓄品を用意して災害に備えております。	地域ぐるみで防災防火訓練を行う。常総地区防火協会で表彰された。他事業者と協力関係も構築されている。水害の心配はない立地である。停電に備え予備電源あり。利用者別の持ち出し品セットや備蓄品があり、定期的に点検し入れ替えをする。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修などでもコミュニケーション方法などを学び、適切な暖かい言葉かけを心がけています。	言葉使いが重要なポイントと捉え、利用者への声掛けや言葉使いについてテスト形式で勉強し、意識付けを図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のご状態に合わせて、ご希望に沿ったケアを心がけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様本位の介護をととても大切にしております。職員一人一人が、意識しケアしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容などでも個人に合わせた支援を行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食レクで各々の利用者様のリクエストを反映して食事提供しております。一緒の家族のように自然にお手伝いも行って下さっております。	献立と食材は業者に委託し、職員が調理している。利用者の好みによって献立を変えている。食レクイベントでラーメンやおはぎを提供することがある。コロナ禍前は外食も楽しんでいたが、現在は家族との外食も制限している。誕生日はケーキを囲んでお祝いする。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立でバランスの取れた食事を提供しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い清潔保持に努めています。訪問歯科もお願いしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	モニタリングを随時行い、個々の状態に合わせた排泄支援を心掛けております。	排泄チェック表を活用し、なるべくオムツを外してトイレでの排泄を促す。個々の状態により、パットの大きさ等も変更している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護師と相談しながら個々に合わせた薬、牛乳、乳製品の提供など工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は2～3日ごとに行っておりますが、希望にできるだけ浴い入浴提供しております。	個人が希望する時間で入浴ができる。夕方や14時～15時頃の時間帯が人気とのこと。毎日入浴される方もいるが拒否傾向の方もおり、職員が協力し合って支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中での適度な活動を促し、夜間の良眠支援につなげております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルを活用して職員一人一人が把握に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションの時間を大切にして音楽療法なども取り入れ、各利用者様に楽しんでいただけるようケア、支援しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、思うような外出はできていませんが、ドライブや行事等、気分転換できるよう支援しています。	コロナ禍で毎日の散歩を自粛していたが、最近になって再開した。オーナーの土地で栗拾いをし、栗ごはんなどにして楽しんだ。コロナ収束前ではあるがしっかり感染対策をして外出し、季節の移ろいを感じてもらうなど、見当識への配慮が見られた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に合わせ少量のお金を持っていただけるよう工夫して支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	気軽に家族に電話等できるようご家族にも協力いただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者様が安心して過ごして頂けるように生活空間を大切に季節に合った掲示物や個々の馴染みの物を置き工夫しております。	フロアには音楽が流れ、明るく清潔で快適な空間になっている。玄関へのアプローチでは花や植木が目を楽しませてくれる。1階のリビング横にはパーテーションで区切った職員用のミーティングスペースが設けられていた。廊下の壁は利用者の部屋前に表札が下げられているだけで、すっきりとした印象であった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各利用者様がさりげなく会話できるようイス配置なども工夫しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや馴染みの物を配置していただき安心して生活ができるように配慮いたしております。	利用者自身が居室内を案内してくれた。謙遜しながら素敵な水墨画を見せてくれた。小さな仏壇を置いている方もおり、どの部屋も整理整頓がされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を大切にして各利用者様に合わせた環境整備を行っております。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム アンダンテ

## 目標達成計画

作成年月日 : 2023年1月6日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	18	コロナ禍の中で以前のような外出支援が行えなかった。	外出支援を増やしていき、利用者様に生き生きとした生活を送っていただけるよう支援する。	外出レクを担当者を決め計画し外出企画書を作成し定期的に外出できるよう支援していきます。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。